

PECS フェイズ②【距離を離し、種類を増やす】

『さて、前号では「絵カードの導入の手前と初期の導入の仕方」に着目をして、PECS フェーズ①について紹介をしました。PECS におけるフェーズ①は絵カードを使って、「自分から要求すること」「自分から手渡すこと」を教える段階でした。もう、フェーズ①の時点から捉え直しが必要でした。だって私たちは「絵カードの導入」といったら「見分けられて、「どれ？」って言われたときに選べる」みたいに捉えていることが多いですからね（でもそれはフェーズ③でした）。さて、本号はフェーズ②について。

PECS フェイズ2

『「絵カードを自立活動の時間に教えたんだけど、自分から持ってきてくれないんだよなー」とか、「結局、サイン言語やクレーンだけで、カードは今や教室の飾りと化してるな…」とか、「絵カード上手くいかない感」を感じたことってありませんか？ 僕は結構頻繁にこの手の「手応えの無さ」に直面してきました。上手くいかないな…と。フェーズ2はまさにこのトレーニング段階です。そして、またしてもコツは「先生が2人がかりでやる」こと。具体的に言うと、離れたところにいる先生にカードを持っていくトレーニングの際に、もうひとりの先生が背後霊になって、腕やら背中やらをツンツンつついで、

「ほら、3メートル離れているけれど、渡してきなよ。シャボン玉セットをくれるよ、あの先生。」

ってすることです。このフェーズ2の段階では「絵カードを選ぶ」ことは問いません。「絵カードを持って大人に近づくといいことがあった」をひたすらに積み重ねるというトレーニングの段階です。

『そして、この段階から絵カードを増やして「PECS ブック」というものを使い始めます。絵カードを増やす際にはカテゴリーが違うものを増やしていくことがコツだとされています。例えば食べ物ばかりにしないとか。例えばおもちゃばかりにしないとか。例えば遊具ばかりにしないとか。ちがったカテゴリーのもので複数枚にカードを増やしていく。』

『この段階の到達目標は、「離れたところにあるカード」をとって、離れた先生に渡すことです。これはタイトルの2つが上手にできるようになってからですが、これも先生が2人一組になって背後霊の先生がブックに向かって押し出して、更に先生に向かって押し出すというトレーニングです。』

